

第56回
東海地区国立高等専門学校体育大会
柔道競技

日時 平成 30 年 7 月 14 日 (土)
開会式 10 : 00
競技開始 開会式終了後

平成 30 年 7 月 15 日 (日)
競技開始 10 : 00

場所 刈谷市体育館 柔道場
TEL 0566-21-7711

本部連絡先 070-6514-7267

主管校 沼津工業高等専門学校
担当校 豊田工業高等専門学校

会 長 挨拶



第56回東海地区国立高等専門学校体育大会
会 長 藤 本 晶
(沼津工業高等専門学校長)

第56回東海地区国立高等専門学校体育大会の主管校として、御挨拶申し上げます。

本大会は、昭和38年に豊田高専を会場に第1回大会が開催されて以来、本年度で56回目を迎えます。高専で学ぶ学生にとって、スポーツは普段の学習では得られない人間形成や仲間づくりの面で大きな役割を果たすとともに、そこで培われる精神力や強靱な身体は、その後の人生の基盤となります。

また、競技で育まれるフェアプレイの姿勢や練習の成果を出し切る精神力、対戦相手への敬意と同じスポーツに全力を傾けた仲間との連帯、そしてチームの団結やコミュニケーション、メンバーとしての責任感など、社会生活を送る上で求められる能力も身につけることができます。

鈴鹿、岐阜、鳥羽、豊田、そして沼津の東海地方の5つの高専の若者が集い、競い合い、そして仲間として繋がって行く、本大会の持つこのような意義は、半世紀が経った今も、そしてこれからも変わらずに受け継がれてゆくものと確信します。

各チームの諸君には、日々の鍛錬の成果、各自の能力を遺憾なく発揮し、スポーツマンシップに則り、若者らしい正々堂々とした闘いを繰り広げてくれることを期待します。また、競技を通じて他校の選手やスタッフと大いに交流し、意義深い大会にしてください。

本年も6月23日、沼津で行われる陸上競技などを皮切りに、10月27日の豊田でのラグビーフットボールまで、16種目の競技が開催されます。競技の実施にあたっては、審判の派遣等、関係各協会、諸団体並びに関係各位に多大な御尽力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

また各競技を担当される各校、関係教職員の献身的な努力に敬意を表します。東海地区大会から多くの選手が北九州高専を主管校として8月に開催される全国高専体育大会に駒を進め、惜しくも全国大会に進めなかった仲間の分まで頑張って、良い成績を上げてくれることを期待します。

目 次

1. 大会役員・・・・・・・・・・	1
2. 式次第・・・・・・・・・・	2
3. 柔道競技要項・・・・・・・・	3
4. 競技役員・選手名・・・・・・・・	5
5. 競技組合せ・・・・・・・・・・	8
6. 個人情報及び肖像権に関する取扱いについて・・・・・・・・	11
7. 救急診療について・・・・・・・・	12
8. 競技会場の御案内・・・・・・・・	13
9. 刈谷市体育館駐車場案内・・・・・・・・	15
10. バス待機場所の御案内・・・・・・・・	16

大 会 役 員

会 長	沼津工業高等専門学校長	藤 本 晶
副会長	鈴鹿工業高等専門学校長 岐阜工業高等専門学校長 鳥羽商船高等専門学校長 豊田工業高等専門学校長 沼津工業高等専門学校学生主事 沼津工業高等専門学校教務主事	吉 田 潤 一 伊 藤 義 人 林 祐 司 田 川 智 彦 高 野 明 夫 小 林 隆 志
委 員	鈴鹿工業高等専門学校学生主事 鈴鹿工業高等専門学校体育主任 鈴鹿工業高等専門学校事務部長 岐阜工業高等専門学校学生主事 岐阜工業高等専門学校体育主任 岐阜工業高等専門学校事務部長 鳥羽商船高等専門学校学生主事 鳥羽商船高等専門学校体育主任 鳥羽商船高等専門学校事務部長 豊田工業高等専門学校学生主事 豊田工業高等専門学校体育主任 豊田工業高等専門学校事務部長 沼津工業高等専門学校体育主任 沼津工業高等専門学校事務部長 沼津工業高等専門学校総務課長 沼津工業高等専門学校学生課長	下 古 谷 博 司 宝 来 毅 水 野 元 洋 久 保 田 圭 司 山 本 浩 貴 木 林 透 坂 牧 孝 規 山 田 英 生 山 内 浩 一 安 藤 浩 哉 伊 藤 道 郎 千 葉 直 樹 渡 邊 志 保 美 杉 浦 利 勝 八 木 正 行 小 澤 強
参 与	鈴鹿工業高等専門学校教務主事 岐阜工業高等専門学校教務主事 鳥羽商船高等専門学校教務主事 豊田工業高等専門学校教務主事	江 崎 尚 和 熊 崎 裕 教 石 田 邦 光 塚 本 武 彦

第56回東海地区国立高等専門学校体育大会

柔道競技

開会式次第(7月14日(土) 10時00分)

1. 選手団・役員整列
1. 開式のことば
1. 優勝杯返還
1. 競技委員長挨拶
1. 選手宣誓
1. 競技上の注意
1. 閉式のことば

閉会式次第(7月15日(日) 競技終了後)

1. 選手団・役員整列
1. 開式のことば
1. 成績発表
1. 表彰
1. 審判長講評
1. 競技委員長挨拶
1. 閉式のことば

柔道競技要項

期 日	平成30年7月14日(土)・15日(日)
会 場	刈谷市体育館 柔道場 住所:448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目32番地 電話:0566-21-7711
審判・監督会議	9時30分
開会式	10時00分
閉会式	競技終了後

A. 競技規定

- (1) 試合は「国際柔道連盟試合審判規定」による。
- (2) 試合時間は、全国大会団体予選・男女個人戦とも4分とし、勝抜戦は3分とする。
- (3) 「優勢勝ち」の判定基準について
 - ① 団体試合・個人試合における優勢勝ちの判定基準は、「技有」又は「僅差」(指導差2)とする。
 - ② 団体戦における「同時一本」は「引分」とし、「両者反則負」の場合は両者負けとする。
 - ③ 団体戦の代表戦(任意選出)及び個人試合において勝敗が決しない場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。延長戦における判定基準は「技有」以上、または「指導」の数に差がついた時点で試合終了となる。両試合者が「同時一本」もしくは指導の累積により「同時反則負け」の場合は、スコアをリセットしゴールデンスコア方式の延長戦によって勝敗を決する。
- (4) 関節技においては、その効果があると認めたとき、審判員の見込みによって「一本」の判断を下すことができる。但し、絞技においては、見込みによる判定を行わない。
- (5) 選手は、全日本柔道連盟規格の柔道衣を着用し、規定のゼッケン(横30±3cm, 縦22±3cm)を付けること。また、試合中柔道衣の破損などにより、試合に支障をきたす場合には、同チームの別の柔道衣(規定に合ったもの)の着用を認める。(H30年までは旧規格でもよい)
- (6) 試合中審判に対して意見(抗議)を言う監督については、三人の審判員で合議し、その監督に言動を慎むように注意をすることができる。なお続くようであれば、その監督を退場させることができる。(全柔連通達事項を重視する)
- (7) 出場選手は、全日本柔道連盟に登録している者とし、申し込みにあたっては、全日本柔道連盟登録IDナンバーを記入すること。
- (8) 出場選手の変更については、正当な理由がある場合、所定の用紙に手続きした上で、顧問会議によって可否を決定する。
- (9)
 - ① 脳震盪対応について、選手および指導者は下記事項を遵守すること。
ア 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
エ 当該選手の指導者は、大会事務局および(公財)全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出すること。
 - ② 皮膚真菌症(トングランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。脳震盪対応については、全柔連通達事項を厳守する事。

B. 競技方法

- (1) 全国高専大会団体予選
 - ① 試合は、5高専によるリーグ戦で行う。
 - ② 各試合は、5名の選手による点取り試合方式で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
 - ③ チーム人員は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手7名以内、計10名以内とする。

- ④ リーグ戦内のチーム対チームの勝敗は、勝数の多いチームを勝とする。勝数が同数の場合は、勝内容(一本勝数・技有勝数)の多い順で決定する。勝内容も同じ場合は、引き分けとする。ただし、一本勝ちと反則勝ちは同等とする。
 - ⑤ リーグ戦の順位の決定は、チーム戦勝数の多いチームを上位とする。勝数が同数の場合は、負数の少ないチームを上位とする。勝負同数の場合は、総得点の多いチームを上位とする。それでも勝負が決定しない場合は、代表戦によって決定する。
 - ⑥ 団体試合の勝内容は、一本勝ち(不戦・棄権・反則)10点、技有勝7点、僅差勝3点、引き分け・負け0点とする。
 - ⑦ オーダー用紙の提出は、試合開始10分前までに行う。試合が連続してある場合は、前の試合終了後速やかにオーダー用紙の提出を行うこと。(当該試合場の試合係は、両チームのオーダー用紙を確認してから掲示すること。)
 - ⑧ 表彰は、1位に優勝杯、1位、2位、3位に賞状を授与する。
 - ⑨ 優勝校は、第53回全国高等専門学校体育大会(団体の部)への出場権を得る。
- (2) 男子個人の部
- ① 出場人員は、監督1名、マネージャー1名、選手は60kg級・73kg級・90kg・90kg超級の4階級に14名以内の出場とする。
 - ② 試合は、体重別によるトーナメント戦とする。(トーナメント戦の組合せについては、出場人数の関係上試合数に不平等性がある場合、顧問会議で確認し再抽選を行うことができる。)
 - ③ 3位決定戦は行わない。
 - ④ 計量に合格しない者は、出場できない。計量は、マネージャー立会いのもと行い、所定の時間内であれば何度でも行うことができる。ただし選手の計量は1日で行うものとする。(大会初日の試合終了後の所定時間内か、個人試合当日の所定時間内のどちらかを、選手が選択できる。)
 - ⑤ 前年度3位以内に入賞した選手を、シード選手とする。
 - ⑥ 表彰は各階級1位、2位、3位に賞状を授与する。
 - ⑦ 各階級の優勝者は、第53回全国高等専門学校体育大会(男子個人の部)への出場権を得る。
- (3) 女子個人の部
- ① 階級は、軽量級・中量級・軽重量級・無差別級とする。*第50回全国大会より、女子の階級についてはエントリー状況を確認して階級が決定されるため。
 - ② 試合組み合わせは、顧問会議にて出場者数を確認し、リーグ戦・トーナメント戦の試合方式を決定し、抽選を行う。
 - ③ 計量は、顧問会議の時間に、マネージャー立会いのもと行い階級を確認する。
 - ④ 表彰は各階級1位、2位、3位に賞状を授与する。
 - ⑤ 各階級の入賞者は、北陸地区の同階級入賞者との間で、東海地区・北陸地区の代表顧問間により全国大会出場の決定を行い、東海北陸地区代表として各階級3名が、第53回全国高等専門学校体育大会(女子個人の部)への出場権を得る。(前年度全国大会上位入賞者等、過去の実績を重視する。)
- (4) 勝抜団体試合
- ① 出場人員は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手10名以内、計13名以内とし、全国大会「団体の部」予選に出場しない選手とする。
 - ② 試合はリーグ戦とし、7名による勝抜戦で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
 - ③ 順位の決定は、勝数の多いチームを勝とする。同勝数の場合は、負数の少ないチームを上位とする。勝数・負数が同じ場合は、残者数の多いチームを上位とする。それでも順位が決定しない場合は、代表戦を行う。
 - ④ オーダー用紙の提出は、試合開始10分前までに行う。試合が連続してある場合は、前の試合終了後速やかにオーダー用紙の提出を行うこと。(当該試合場の試合係は、両チームのオーダー用紙を確認してから掲示すること。)
 - ⑤ 表彰は1位、2位に賞状を授与する。

競 技 役 員

競技委員長	豊田工業高等専門学校学生主事	安藤 浩哉						
会場責任者	今 徳義							
会場副責任者	熊谷 勇喜	田中 淑晴						
審判長	山本 和俊							
審判	伊藤 篤俊	宇野 隼未	梅田 篤	梅村みどり	加藤 勇雄	加藤恵美子	加藤 幸生	
	榊原 伝	都築 太志	中川 孝幸	西川 裕祐		(順不同)		
救護員	木之本奈美							
補助員	豊田工業高等専門学校柔道部							

選 手 名

【全国高専大会団体予選】

○印・・・主将

岐阜工業高等専門学校

監 督 山本 浩貴
コ ー チ 奥村 泰大
マネージャー 長田 知紘

番号	氏名	段位	学年
1 ○	加納 諒一	参	5
2	日下部 完	弐	4
3	牛丸 克之	弐	4
4	松久 聖	弐	4
5	山下 達也	弐	4
6	渡辺 猛	弐	4
7	丹下 賢人	弐	4

鈴鹿工業高等専門学校

監 督 仲本 朝基
コ ー チ
マネージャー 下野 晃

番号	氏名	段位	学年
1 ○	水谷 颯	初	4
2	平松 一輝	初	5
3	高井 駿	1級	5
4	林 洸一郎	初	3
5	前田 磨緒	初	2
6	北村 一真	初	1
7			

鳥羽商船高等専門学校

監 督 富澤 明
コ ー チ 村林 正美
マネージャー

番号	氏名	段位	学年
1 ○	永井 仁	初	5
2	木下 涼介	初	4
3	井上 拓乙	初	4
4	片山 隼作	初	3
5	潮田 剛	初	1
6	大丸 郎典	初	1
7			

豊田工業高等専門学校

監 督 田中 淑晴
コ ー チ 森 真一郎
マネージャー

番号	氏名	段位	学年
1 ○	川治 隼太	初	4
2	三浦 大	初	4
3	小長野 翔一	初	3
4	鈴木 信吾	初	3
5	小川 武流	無	3
6	杉本 潤哉	初	2
7			

【男子個人の部】

岐阜工業高等専門学校

監督 山本 浩貴
マネージャー 長田 知紘

(60kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	奥村 泰大	弐	4
2	山下 達也	弐	4
3	牟田 麗人	弐	2
4	廣瀬 僚人	一	1

(73kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	○ 加納 諒一	参	5
2	渡辺 猛	弐	4
3	日比野 翔馬	弐	3
4			

(90kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	日下部 完	弐	4
2	牛丸 克之	弐	4
3	堀 了也	弐	5
4			

(90kg超級)

番号	氏名	段位	学年
1	丹下 賢人	弐	4
2	松久 聖	弐	4
3			
4			

鈴鹿工業高等専門学校

監督 仲本 朝基
マネージャー 下野 晃

(60kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	○ 水谷 颯	初	4
2	前田 磨緒	初	2
3			
4			

(73kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	平松 一輝	初	5
2	林 洸一郎	初	3
3			
4			

(90kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	高井 駿	1級	5
2	北村 一真	初	1
3			
4			

(90kg超級)

番号	氏名	段位	学年
1			
2			
3			
4			

鳥羽商船高等専門学校

監督 林 浩一
マネージャー

(60kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	久保 勇斗	無	5
2	堀畑 怜哉	無	4
3	辻 皓雄	初	4
4			

(73kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	井上 拓乙	初	4
2	片山 隼作	初	3
3	潮田 剛	初	1
4	大丸 郎典	初	1

(90kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	大岡 昇太	無	4
2	瀬古 琉成	無	3
3			
4			

(90kg超級)

番号	氏名	段位	学年
1	○ 永井 仁	初	5
2	木下 涼介	初	4
3	名古 健人	1級	2
4			

豊田工業高等専門学校

監督 田中 淑晴
マネージャー

(60kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	○ 川治 隼太	初	4
2	小川 武流	無	3
3	金子 達真	無	3
4			

(73kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	小長野 翔一	初	3
2	杉本 潤哉	初	2
3	小田中 秋人	無	5
4			

(90kg級)

番号	氏名	段位	学年
1	三浦 大	初	4
2	山崎 涼馬	無	4
3			
4			

(90kg超級)

番号	氏名	段位	学年
1			
2			
3			
4			

【女子個人の部】

鳥羽商船高等専門学校

監督 林 浩一

(軽量級)

番号	氏名	段位	学年
1	西田 唯夏	1級	3

(中量級)

番号	氏名	段位	学年
1	田中 美和	1級	4
1	宮田 ゆう	1級	3

【勝抜団体試合】

岐阜工業高等専門学校

監督 栗山 嘉文
コーチ 日比野 翔馬
マネージャー 今井 龍之介

番号	氏名	段位	学年
1	○ 奥村 泰大	弐	4
2	堀 了也	弐	5
3	牟田 麗人	弐	2
4	廣瀬 僚人	一	1
5	若林 虎千代	無	1
6			
7			
8			
9			
10			

鳥羽商船高等専門学校

監督 坂牧 孝規
コーチ 村林 正美
マネージャー

番号	氏名	段位	学年
1	○ 辻 皓雄	初	4
2	堀畑 怜哉	無	4
3	久保 勇斗	無	5
4	大岡 昇太	無	4
5	瀬古 琉成	無	3
6	名古 健人	1級	2
7			
8			
9			
10			

豊田工業高等専門学校

監督 田中 淑晴
コーチ 森 真一郎
マネージャー

番号	氏名	段位	学年
1	小田中 秋人	無	5
2	山崎 涼馬	無	4
3	金子 達真	無	3
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

柔道組合せ

競技開始時刻 7月14日 開会式終了後
7月15日 10時

全国高専大会団体予選

第1試合場 第1試合 第2試合 第3試合
豊田 — 岐阜 岐阜 — 鈴鹿 豊田 — 鈴鹿
第2試合場 鈴鹿 — 鳥羽 豊田 — 鳥羽 岐阜 — 鳥羽

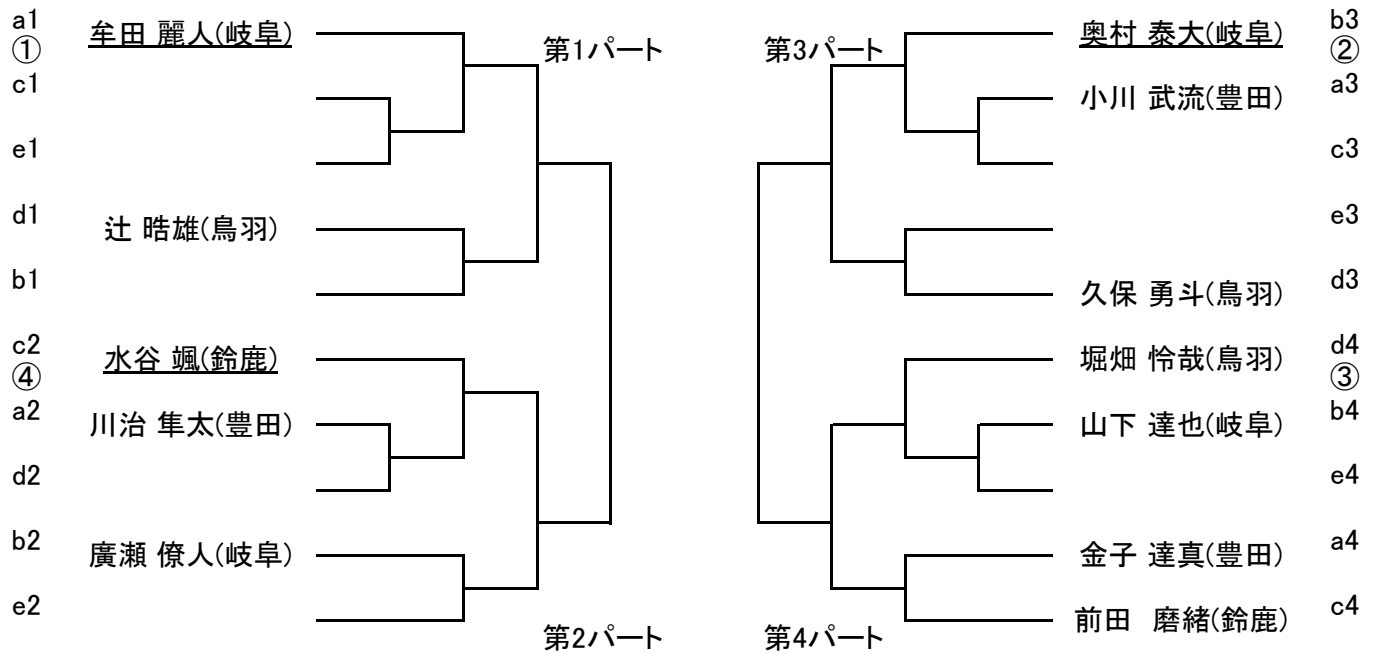
学校名	豊田	岐阜	鈴鹿	鳥羽	勝数	負数	総得点	順位
豊田								
岐阜								
鈴鹿								
鳥羽								

勝抜団体試合

第1試合場 第1試合 第2試合 第3試合
豊田 — 岐阜 岐阜 — 鳥羽 豊田 — 鳥羽

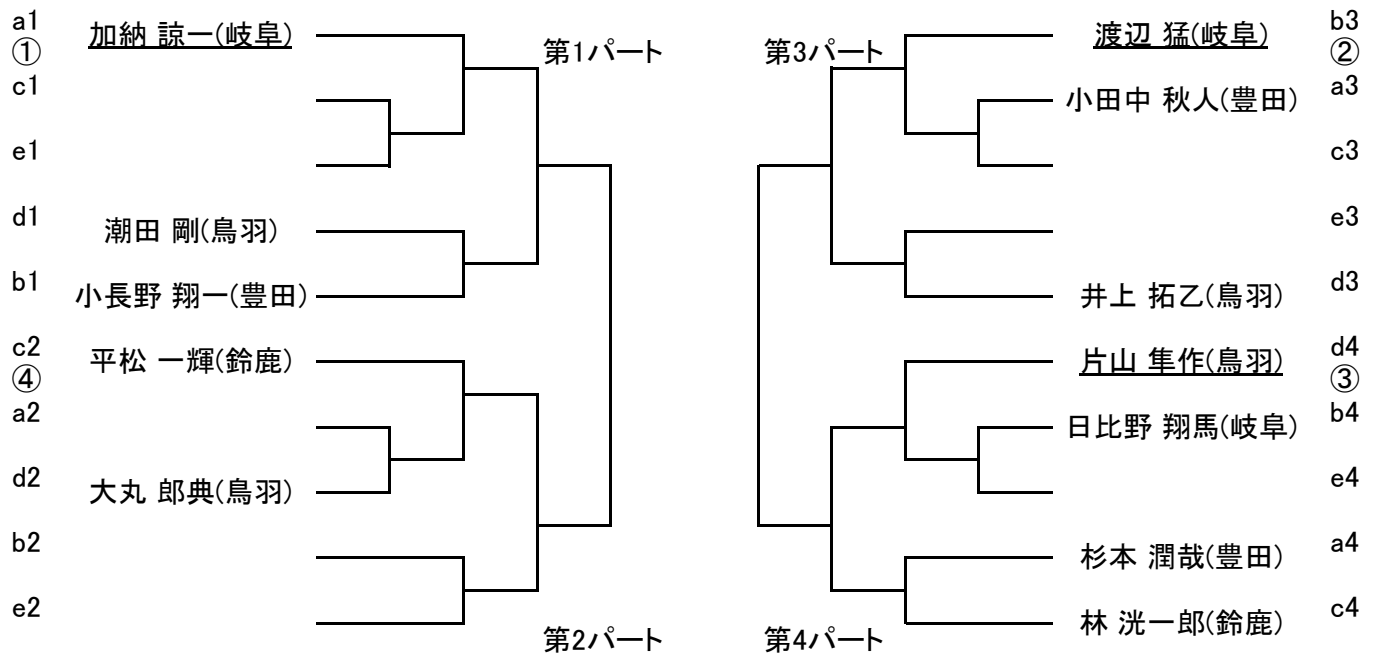
学校名	豊田	岐阜	鳥羽	勝数	負数	残者数	順位
豊田							
岐阜							
鳥羽							

男子個人の部(60kg級)



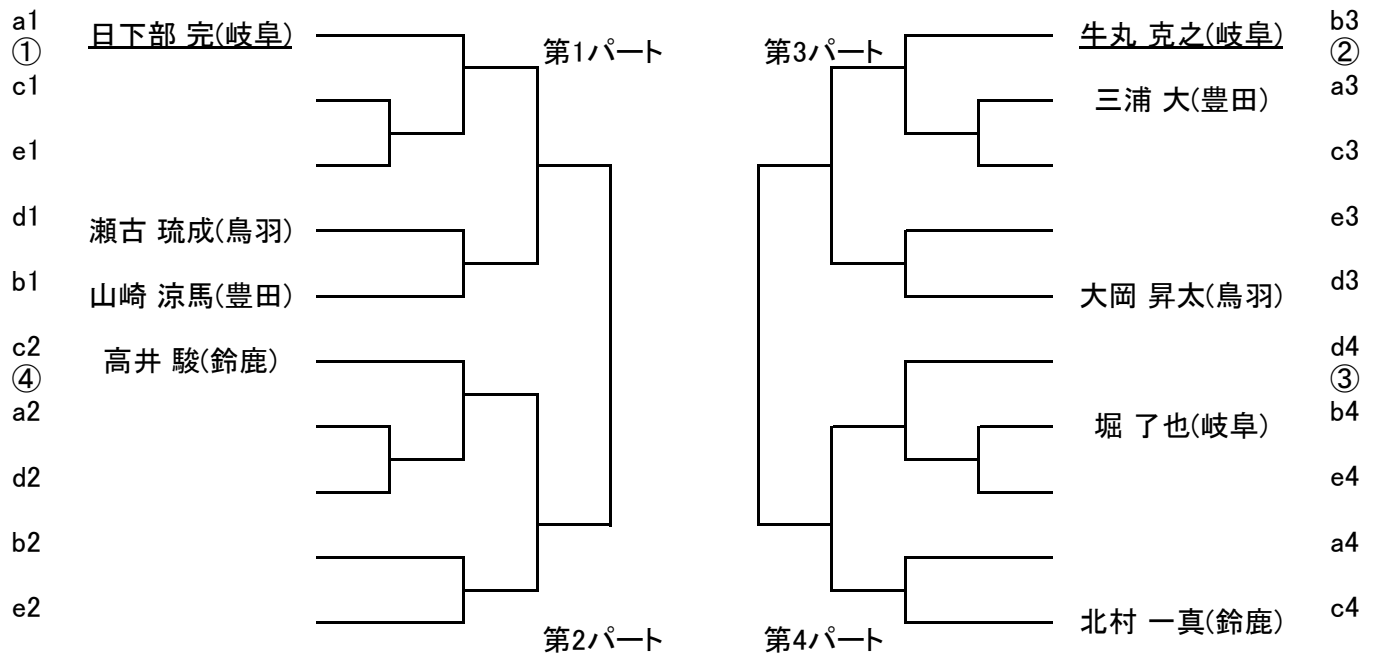
下線はシード選手 丸数字はシード順

男子個人の部(73kg級)

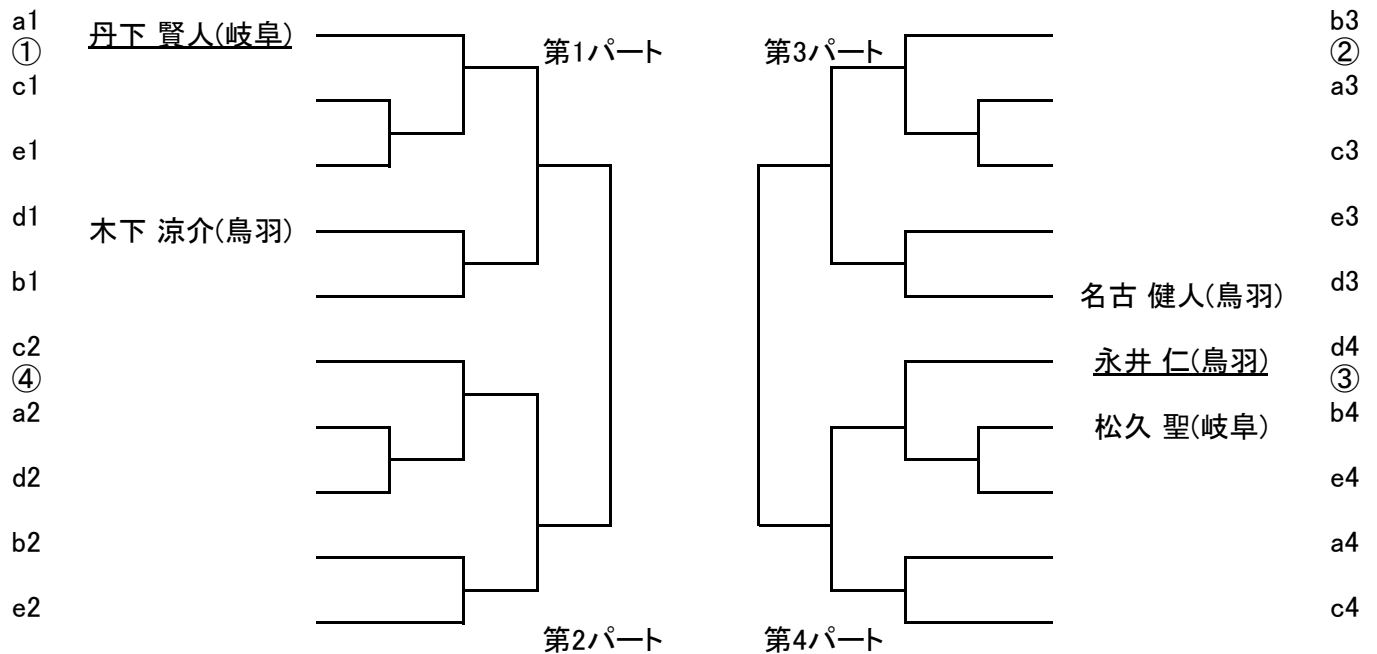


下線はシード選手 丸数字はシード順

男子個人の部(90kg級)



男子個人の部(90kg超級)



個人情報及び肖像権に関する取り扱いについて

第56回東海地区国立高等専門学校体育大会

大会参加に際して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。

大会出場者で、ホームページ、報道等に、個人名を公表して欲しくない者は、学校を通して大会事務局に申し出てください。事前に申し出のない場合は、公表します。

救急診療について

刈谷市では休日などの急病等に対応するための診療を以下のとおり行っています。

○内科

刈谷医師会館：一色町 3-5-1（電話：0566-24-1111）

※設備の都合上、血液検査・胸部レントゲンおよび点滴はできません。

【受付時間】

8 時 30 分から 11 時 30 分、13 時から 17 時、18 時から 19 時 30 分

【診療時間】

9 時から 12 時、13 時から 17 時 30 分、18 時から 19 時 30 分

※暴風警報発令中の時間帯は、原則休診となります。警報が 15 時までの解除された場合、その 2 時間後から診療を開始します。15 時の時点で警報が発令されている場合は、休診になります。



○外科（9 時から 12 時、13 時から 17 時）

刈谷記念病院：小垣江町牛狭間 112 番地（電話：0566-21-0123）

○歯科（9 時から 12 時）

みやび歯科医院：中山町 2-25（電話：0566-61-0588）

※上記日曜等の診療時間外及び平日の夜間に急病、ケガなどでお困りの場合は、かかりつけの医師へ連絡し、不在のときは救急医療情報センター（電話：0566-36-1133、<http://www.qq.pref.aichi.jp/>）へお問合せください。

※受診の際は、健康保険証、各種受給者証などを忘れずにお持ちください。

競技会場の御案内



刈谷市体育館

お問い合わせ

TEL 0566-21-7711

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4-32

交通アクセス

- JR東海道本線「逢妻」駅から徒歩15分
 〈逢妻駅南口より、公共施設連絡バス〉
 〈小垣江線「体育館」バス停車〉



刈谷市体育館 駐車場案内



バス待機場所（港町グラウンド入口付近）の御案内



矢印方面からの写真

